

令和7年「全国学力・学習状況調査」 結果より

1, 各教科結果の分析

＜国語＞ 本年度の3年生の国語の学力は、ほぼ普通程度でした。

本校の生徒が良くできていた問題は、手紙の下書きに関するもので、①間違っている漢字を抜き出す問題、②修正した方が良い部分を修正しその理由を書くという問題でした。逆に不得意としているのは、発表内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫についてどのような助言をするかという問題でした。解答の中に盛り込むべき条件の内の一つが欠けていたという生徒が大勢いました。

＜数学＞ 本年度の3年生の数学の学力は、ほぼ普通程度でした。

素数を答える問題や度数分布表からある階級の相対度数を求める問題は非常によくできていました。できていなかったものは、連続する二つの3の倍数の説明や連続する三つの3の倍数の説明などの問題です。いずれも式を用いて説明する際に、必要とされる二つの事柄の内一つしか答えられていない生徒が多く見られました。

＜理科＞ 理科の学力も、ほぼ普通程度でした。

今回の理科は、コンピュータを使ったものでありましたが、今回初めて導入されたのは、テストの実施日により、①いくつかの問題が異なる、②非公開の問題がある、ことです。共通の問題の中で、本校の生徒が不得意として挙げたものが、化学変化をモデルで表す問題でした。無回答数も多いのですが、モデルで表すことができて、そのモデルの数が最も簡単な整数比にできていなかったために不正解となっている生徒が多くいました。

- 以上＜国語＞と＜数学＞と＜理科＞の結果を総合すると、本校の生徒は昨年度と同じで、**会話文などの短文でのやりとりは読み取れるが、情報・文章を正しく理解して、要約したり、適切に解答したりする力が、まだ不足していると考えられます。**本年度から進めている改善策が、結果として表れるにはしばらく時間がかかると思われますが、この力の育成に向けて現在、全職員で取り組んでいるところです。

2, 生徒質問紙より

本年度も「朝食を食べる」「定時に起床する」など、基本的な生活習慣は良好で、9割もしくは9割近くが肯定的回答となっていました。また、「いじめは悪い」「人の役に立ちたい」は9割を超え、今までと同様に三中生は、**規範意識が高くルールや決まりを守り、落ち着いて学校生活を送ることができる生徒**であることが分かります。また、本年度は、「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人に相談できる」「先生は良いところを認めてくれる」が向上していました。さらに「学校に行くのは楽しい」は、肯定的回答が9割近くとなり、ここ数年の中で一番高くなりました。これは、Q-Uというアンケートで生徒一人一人や学級の状況を把握するとともに、長期休業後に行う教育相談だけでなく、普段から生徒に声掛けをしている結果であると考えられます。昨年度も課題として挙げられた、**家庭学習を充実させること**に関しては、平日全く学習しない生徒が昨年度よりも少なくなりましたが、1時間以上学習している生徒は6割に届いておりません。学力を向上させるためには不可欠である家庭学習の充実に向け、現在職員研修を重ね、三中としてどのような手立てを講じて行けば良いかを検討しているところです。